

常任委員長報告

各常任委員会に付託された議案等の審査結果について、それぞれの常任委員長が報告しました。各常任委員長報告における委員の意見や要望の主なものは次のとおりです。

総務委員会

【2月21日報告】

- *防災施設等の30年度整備完了に向けて、津波避難タワー、避難橋(ひなんばし)等の整備が着実に進んでいることを評価している。一方、災害時には、想定していない事態が起こることを意識し、引き続き**津波避難対策**を充実させること。
- ***海洋文化拠点施設**検討経費の繰越明許費について、繰越の理由は理解しているが、海洋文化拠点施設の整備は目玉政策であるので、組織・人員の充実を図り、今後の施設整備全体のスケジュールに影響が生じないような計画を策定すること。

【3月20日報告】

- *一般財源が伸び悩む中、厳しい財政運営が続いているが、行財政改革・アセットマネジメントの推進、民間活力の導入、事務事業の見直し等により**自主財源の確保**に努めること。
- *県中部5市2町の互いの交流人口の増加と経済活性化を目的に発行する「**イベントニュース**」は、各市町がウインウインの関係となるよう静岡市がリーダーシップをとって進めること。
- *2030年に向けた**世界の共通目標「SDGs」**への積極的な取組による効果の発揮と、5大構想以外でも共生都市の推進などSDGsと親和性の高い他事業と連動させること。
- *平成30年度の当初予算には、大規模な施設建設等に係る計画や方針等の策定事業が複数含まれているが、**市民生活に密着した学校や団地等の整備**も多く残されているので、民間活力を最大限に活用するなど経費の縮減を図りながら進めること。

企業消防委員会

【2月21日報告】

- ***消防ヘリコプターの点検整備**中は、静岡県、浜松市、県東部や西部でドクターヘリを運用している医療機関と連携し、救急救助事案に支障が生じないようにした上で、点検業務を確実にすること。
- ***市街地にある市有地**は貴重な財産であるため、利活用については、今後も庁内連携を図りながら進めていくこと。

【3月20日報告】

- ***上下水道**は市民生活に欠かせない重要なライフラインであり、引き続き施設の整備や更新・耐震化を計画的に進めていくこと。
- *人口減少により**水道料金・下水道使用料**が減収傾向にある中、事業の整理や効率化に継続して取り組み、中長期的な視点から今後の経営のあり方について検討すること。
- ***上下水道事業第3次中期経営計画**に示されている事務事業の見直しや効率化などに着実に取り組むとともに、懸案事項を次期第4次中期経営計画に反映させること。
- *消防職員の能力を高めることは市民サービスの向上につながるため、来年度、消防総務課内に新設される人材育成係を中心として、**効果的で効率的な研修、訓練体制の構築**に努めること。
- *30年度に消防庁から**ドローン1機が配備**されることに伴い、操縦士の育成方法など各種マニュアル等を作成し、安全な運用体制を整備していくことだが、さらに市独自の複数機導入を検討すること。
- ***AED(自動体外式除細動器)**の設置は登録制でないため、市による設置場所の把握は困難だと承知しているが、設置場所の市民周知や119番通報受電時の近隣の公共施設AED設置情報提供などを検討すること。

観光文化経済委員会

【2月21日報告】

- ***清水庵原球場の整備**については、硬式野球の練習や合宿利用ができる重要な施設であるので遅滞なく供用を開始すること。
- ***アンテナショップ開設事業**については、県中部5市2町の共同事業であることから、十分に連携を図り、早期に開設すること。
- ***企業立地や機械設備導入に係る助成**については、企業の設備投資計画のタイミングを逸することなく支援を行うこと。また、中小企業融資制度を含め企業が使いやすい制度とすること。

【3月20日報告】

- *観光・国際交流課の新設に当たり、**観光客の誘致**をより一層推進するとともに、誘致した観光客に対しては、各年代や滞在時間に合わせたコースを提案し、本市をまた訪れたいと思ってもらえる取組を進めていくこと。
- ***まちは劇場推進事業**については、まちは劇場推進課の新設及びまちは劇場推進監が配置されるため、いつでも、どこでも、わくわく、ドキドキ感を抱くことができる静岡市の実現のために、情報発信の強化など、着実に事業を行うこと。
- ***清水港開港120周年記念事業**については、30年度、清水港ウォーターフロントエリアに関わる事業も多いことから、県や民間と十分に連携し、おもてなしや受け入れ環境を整備し、国際海洋文化都市の実現に向けて推進していくこと。
- ***中小企業に対する各種支援事業**については、企業の要望に応じたオーダーメイドの支援や事業継承促進のための支援を行うとともに、**中小企業振興基本条例**の策定に当たっては、様々な意見を聞き、企業の実態の把握に努めていくこと。

市民環境教育委員会

【2月21日報告】

- ***不燃・粗大ごみ受付センター運営業務**について、高齢者のみの世帯等を対象に運び出しの支援を行う「ふれあい収集」が好評であることを踏まえ、引き続き市民の利便性向上に努めること。
- ***小中学校校舎トイレリフレッシュ事業**について、健やかな学びの環境を整える見地から、計画的かつ早期に進めていくこと。

【3月20日報告】

- *新たに導入される**市民活動支援システム**について、多くの人が市民活動に参加できるように活用方法を検討すること。
- ***清水ストックヤード建設事業**について、清掃工場解体に当たり、ごみ受付センターを利用する市民に不便のないように配慮した上で、ダイオキシン類対策も講ずること。
- ***通級指導学級の教員配置**の充実に努めるとともに、専門人材を確保し育成すること。
- *英語が堪能な地域の人材である**GET(グローバル イングリッシュ ティーチャー)**の採用に当たっては、配置目的に沿った人材を確保すること。また、お茶や海洋といった静岡市の文化を身につけるための人材も確保すること。
- ***図書館の大規模改修計画策定**の機会に、市民ニーズの変化やあるべき機能を踏まえた検討を行うこと。

厚生委員会

【2月21日報告】

- ***私立こども園・保育所等の施設整備費助成及び私立認定こども園等整備事業費助成**について、目標件数に達せず、減額補正になったことは残念だが、人口減少対策としても必要な施策であるため、引き続き施設等の整備を推進すること。
- ***清水病院の経営改善**に当たっては、医師不足などの病院経営に重大な影響を及ぼす潜在的なリスクを顕在化させた上で対策をとるというマネジメントが必要であり、スピード感をもって医師確保等に努めること。

【3月20日報告】

- ***生涯活躍のまち静岡(CCRC)推進事業**について、駿河区役所周辺を「共生」地区として新たな拠点整備をしていくに当たり、ほかの地区のモデルになるように着実に事業を実施すること。
- *がん末期を告知されたあとの暮らしを充実したものにするため、告知後すぐにも支援が受けられるように**サービス申請の簡略化**を進めること。
- ***高齢者就労促進事業**について、人生100年時代と言われる中、退職後の充実した生活の実現に向けて、様々な調査を進め、31年度には就労を希望する高齢者が実際に就労できる事業の実施ができるよう検討を進めること。
- ***子育てしやすいまちPR事業**について、子ども・子育てに関するライフデザインを描き、本市では子どもが生まれてから就職するまでの支援体制が整っていることが分かるように、各局と連携してPR事業を展開すること。
- ***静岡市子どもの生活実態調査及び静岡市子どもの貧困対策推進計画**について、生活実態調査の結果を市民と共同で議論する場を設けること。
- ***清水病院**について、医師の確保、病院のPR、広報の強化といった一つ一つの改善策を積み重ね、清水区民の命を守る公立病院として健全な病院経営ができるよう、全庁をあげて経営改善に努めること。

都市建設委員会

【2月21日報告】

- ***バス路線維持**について、路線バスは市民の足としての公共交通を担っており、本市はバス会社に対して助成を行っていることから、市民ニーズに応えられるような運行に努力すること。あわせて、バス会社と連携し、乗務員の確保についても努力すること。
- *路上に散乱した落石により**市が管理する道路で事故**が発生したが、今後とも事故防止に努力すること。

【3月20日報告】

- ***地域交通弱者対策事業費助成**について、今後、他の地域へも拡大すること。また、拡大に当たっては自治会や地域のボランティア等への協力依頼も検討すること。
- *架橋から20年余経過した**駿府城公園東御門橋**について、30年度は32年度の架け替え事業に向けた予備設計を行うとのことだが、架け替えに当たっては市内産の木材の使用を積極的に検討すること。
- ***特定公共賃貸住宅**について、長く空き部屋となっている部屋があることは市にとって大きな損失であるので、特定公共賃貸住宅の管理、運営を健全化すること。
- ***交通安全施設整備事業**に係る生活道路対策事業について、歩行者等の安全のため地域に合ったハードの対策とともに、ソフト対策として交通マナーの意識づけをあわせて進めること。
- ***(仮称)東名静岡東スマートインターチェンジ**などのインフラ整備が進むことによって、今後、本市では更なる道路ネットワークの拡充が期待される一方、南北方向の道路ネットワークが脆弱だと言われているので、**南北軸の道路整備**をスピード感をもって取り組むこと。